

(熊本工業高等学校全日制) 平成 29 年度学校評価表

1 学校教育目標

◇教育目標

**夢・実現への挑戦 ～柔軟な思考力・積極的行動力を持つ人材育成～**

- 1 心豊かで、礼節を身に付け、志高く自主自律の精神で活力に溢れ、国際化が進む社会に貢献できる有為な人材を育成する。
- 2 進路実現に向けて自分の可能性に挑戦し、自己実現を図る人材を育成する。
- 3 ものづくり教育の充実や学校行事、部活動の活性化を図るとともに、将来において心身ともに健康で、社会人・職業人として自立し共生する人材を育成する。

2 本年度の重点目標

平成 29 年度県立学校における教育指導の重点のもと「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標を根幹に、学育、心育、体育を基本とし、「敬愛・努力・感動」を合言葉に、各項目を本年度の具体的取り組みとする。

1 基礎・基本の充実・定着

- ・自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決していく資質や能力、すなわち「生きる力」の育成に努める。
- ・分かる授業、生徒が意欲的に取り組む授業のための指導方法・教材等の工夫・改善に努める。
- ・朝読書をとおして、知性や感性を豊かにするとともに、集中力を高め、落ち着いた学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。

2 工業教育の充実

- ・専門高校の特色を生かした資格取得を奨励し、計画的な指導の実施及び産業界に貢献できる人材の育成に努める。
- ・ものづくり教育をとおして、困難な課題や問題に果敢に挑み、自らその解決に試行錯誤を繰り返して努力し、乗り越えていくことで、自立心や創造力を培うことができる人づくり教育に努める。

3 基本的生活習慣の確立

- ・5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を推進し、落ち着いて学業に専念できる環境の整備に努める。
- ・規範意識を向上させ、社会人として自立し、共生する人格の育成に努める。
- ・2A運動の徹底に努める。  
「当（A）たり前のことを、当（A）たり前に」「安（A）全で、愛（A）校心を育む環境に」

4 キャリア教育の振興・推進

- ・キャリア教育を意識した進路指導の充実と進路保障に努める。
- ・進学・公務員及び企業への進路保障に必要な組織的な受験対策とその支援に努める。
- ・勤労体験や奉仕活動をとおして、職業観や奉仕の精神の育成に努めるとともに、コミュニケーション能力を身に付けた生徒の育成に努める。

5 部活動の活性化

- ・スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に努める。
- ・文化部及び体育部活動の活性化により、健全で充実した学校生活の支援に努める。
- ・文武両道を推進し、知（確かな学力）、徳（豊かな心）、体（健康な体）のバランスの取れた生きる力を育む。
- ・それぞれの個性・能力を持った生徒が目標達成のために団結し心を一にして挑戦するなかで、充実感・達成感を味わい体力はもとより忍耐力・精神力を養う。

6 人権教育の推進

- ・人権尊重の精神のもと、全教育活動をとおして「心に届き」「心を揺り動かし」「心を豊かに」する心の教育に努める。
- ・教育の根幹に人権教育を捉え、生徒にしっかり寄り添い、生徒一人一人を大切にした教育に努める。
- ・思いやりの心を育て、挨拶を交わし、明るく活気のある学校づくりに努める。

7 グローバル化に対応した教育の推進

- ・英語教育の充実をはじめ、国際理解教育や国際的な職業への関心を喚起する取組を推進し、国際的な産業競争力の向上や国際間のきずなの強化等のグローバルな舞台上積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図る。
- ・郷土に誇りを持ち、自然や文化・伝統を大切にすることを育み、グローバル社会に対応できる技術革新、情報収集できる能力の育成に努める。
- ・朝の英会話放送をとおして、英語の聴解力や読解力を高めるとともに、集中力を高め、落ち着いた学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の経営方針の徹底	・教育目標・教育方針を周知徹底した結果の生徒や保護者の理解度	・職員アンケートで学校目標の理解を100%に近づける。	・本年度の重点目標を職員会議で明示し徹底 ・朝礼及び育成面談などを利用して、機会ある毎に重点目標を徹底 ・主任主事を通じて全職員に徹底	B	・現校長1年目であるが、昨年に引き続き「夢・実現への挑戦」という教育目標を掲げている。職員アンケートの回答結果で、周知されているかの項目で「そう思う」はやや減少したものの、「ややそう思う」を含めると昨年と同じ水準を維持している。また5S活動及び2A運動の推進を意識した指導については、90%程度の職員が実行していると答えたが、清掃の部分でまだまだ徹底できていないと感じる。
			・保護者アンケートで学校目標の理解90%以上	・保護者会や学年保護者会等を利用して周知 ・保護者会新聞「清流」やホームページ活用での周知		B
	保護者との連携	・保護者会役員との連携及び保護者会活動の活性化	・保護者会役員会の開催年間10回以上 ・様々な保護者会活動のPR	・保護者役員会を定例化し、学校と保護者の連携を強化するとともに、併せて出席についても働きかけを依頼 ・保護者会年次総会時に年間の行事予定表を配付すると共に、学校のホームページ等を利用した日頃の活動の紹介	B	・本年も毎月定例役員会を確実に実施し、保護者会として組織的活動に繋げることができた。成果として保護者会バザー等の全保護者を対象とした活動も復旧工事で様々な制限がある中、積極的に参加されていた。保護者会の出席率については、まだ第1体育館が使用できず66%と昨年並みの出席率となった。
	目標の達成に向けての取組	・各部各科の取組と本目標達成との整合性	・年度末に本評価で、B評価以上が昨年度の80%以上	・主任・主事との報告・連絡・相談を密にして取組の現状と課題を把握 ・適切な指導助言により管理職と職員が一体感を持ちながら取り組み、組織的な校務運営による目標達成	A	・まだまだ熊本地震の影響が残る状況であるが、B評価以上が目標であった80%を超えることができた。ICTの活用などわかりやすい授業の工夫により授業の評価が数%上昇した。進路では国公立大合格者、公務員内定者は昨年から減少したものの、公務員試験の最終合格者の割合は大幅に改善した。また、企業就職試験の1次での合格率は96.3%で、2年連続で増加した。後期（一般）選抜志願者数は、過去最高となった昨年を下回ったものの、生徒数減少の中でも健闘し近隣校に比べて高い倍率を維持することができた。
学力向上	計画的な学習指導の充実	・計画的な学習指導と適正な評価	・年間をとおした計画的な授業、基礎学力定着と技能の習得 ・課題解決のための「思考力」「判断力」「表現力」の育成	・シラバスの作成、年間計画・評価方法等の生徒への周知徹底 ・授業中の活動やレポート・作品・発表等生徒の個に応じた適切な評価による生徒の意欲向上	B	・学校評価アンケートの結果から、シラバスを活用した計画的な学習指導について「評価できる」14.2%、「やや評価できる」62.8%であった。昨年度比はそれぞれ-1.4%、+4.1%であり、概ね向上した。 ・学習評価に関する職員研修を実施。

	授業内容の工夫・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かる授業の実践</li> <li>興味関心意欲を向上させる授業の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価「とても分かり易い」50%以上</li> <li>授業評価「授業により学習への興味関心意欲が向上」40%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートの年間2回実施による生徒の実態に合わせたきめ細かな改善</li> <li>研究授業・公開授業の更なる活性化</li> <li>授業改善に関する職員研修の実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価における「とても分かり易い」の項目は46.1%であり、昨年度から4.0%向上した。</li> <li>「授業により学習への興味関心意欲が向上」の項目は32.1%で昨年度から2.9%向上し、その他の項目においても、ほぼ全ての項目において向上した。</li> <li>公開授業の参観者数は34人であり、昨年度の43人から減少した。職員参観者数は延べ73人。</li> </ul>
	基礎学力の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的かつ意欲的に取り組む姿勢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期末における欠点保持者数を昨年度比減</li> <li>5S活動の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査、各種テストに向けた事前・事後指導の徹底</li> <li>家庭学習での5Sの意識付け、学習環境の整備</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期末における欠点保持者数は、全学年で130人であり、昨年度の101人から増加した。</li> <li>欠点保持者を学年で指導する等の改善に向けた取り組みもあり、全学年の平均点は65.3と、昨年度の64.2からの低下は見られていない。</li> </ul>
	資格取得での学習意欲高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種資格検定試験へのチャレンジ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジュニアマイスター認定者数の昨年度比増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各科を中心とした資格取得指導の充実</li> <li>ジュニアマイスター認定を目標とした資格取得に対する意識付け</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得による単位認定を継続しており、学習意欲の向上にも繋がっている。</li> <li>ジュニアマイスター認定を目標として、資格取得に対する意欲・関心を高めることができた。</li> </ul>
キャリア教育（進路指導）	学校紹介就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校紹介就職希望者の進路実現に向けた学年・各科・地域社会との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職採用試験一次応募での合格率90%以上</li> <li>学校紹介就職希望者の年内全員内定</li> <li>県内就職率の前年度比10%増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業（特に地元企業）との積極的な情報交換による相互理解の深化と求人確保</li> <li>進路目標の早期確立を目指す生徒・保護者への継続的かつ適切な進路情報の提供</li> <li>望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育の推進</li> <li>社会人・職業人としての自立を促す5S活動や2A運動、ものづくり教育・グローバル教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一次応募での合格率は93.6%（昨年比+0.4、一昨年比+2.4）となり、12月中旬までに100%就職内定という結果を得ることができた。</li> <li>求人倍率がバブル期並みの高水準となり、「挑戦」に値する難関企業への就職者や、鉄鋼業界などものづくりの最前線への女子就職者が増加した。</li> <li>県内企業への内定者数は昨年度より約3割増加し、県内就職率も40%を超えたが、依然として県外への産業人材の流出が続いている。</li> </ul>
	公務員就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>公務員就職希望者の進路実現に向けた学年・科・官庁との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公務員就職希望者の90%以上の最終合格</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的な出願・受験を促す個人面談や外部講師による講座等の計画的実施</li> <li>課外参加への環境づくりと面接指導の充実</li> <li>専門高校の利点を最大限に活かした技術職への合格者増加に向けた取組強化</li> <li>出願手続きに関する指導体制の充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>何か一つでも公務員採用試験に最終合格した生徒は43人、受験者総数に対する合格率は93.5%となり、合格率は過去最高の値となった。</li> <li>前年に改善・充実化を図った面接指導の体制が定着した。今年はさらに多くの生徒が積極的に指導を受け、最終合格につなげることができた。</li> <li>国家公務員合格者の官庁訪問・採用面接の活動が例年より低調であった。自分から複数の官庁に足を運んだ上で進路を選択させる必要性を感じた。</li> </ul>
	進学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学希望者の進路実現に向けた学年・科・上級学校との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学進学希望者の80%以上の合格</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の目標実現に必要な進学への意識を高め、自ら学習する姿勢を育む計画的なキャリア教育の推進</li> <li>継続的な進学情報の提供と、課外や模試、進学プログラムへの参加促進</li> <li>面接指導はもとより、各科との連携による専門教科課外、小論文指導の強化・充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学のAO入試では10人中3人、推薦入試Iでは9人中4人が合格した。合格率が思うように上がらなかった要因は、志望理由書等の作成に手間取り、口頭試問・面接等への対応が遅れたことである。推薦文や志望理由書等の書き方を学ぶ指導力向上のための職員研修が必要である。</li> <li>小論文試験対策として課外や外部講師による特別授業の実施後、系統ごとに担当者（主に国語科）を決めて個別指導をしていただいた。生徒は何度も書いて力</li> </ul>

						をつけ、入試では高い評価を得た。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成	・出席率向上	昨年度比 ・遅刻 20%減 ・欠席 25%減 ・皆勤、精勤者計80%達成	・早朝からの登校指導による声かけ指導を充実させ、担任、科、部活動顧問との連携強化 ・情報交換会による生徒状況の把握と早期対応に取り組み、教育相談部と連携して長欠者の減少を図る。	C	・2学期に入り1年生の欠席者数が約1.5倍、3年生の遅刻者数が約2倍と増加。長欠者は減少しているが、1・3年生の遅刻と欠席数の増加が気がりである。 ・無欠席者数も2学期終了時点で90%を割り込む結果となった。 ・繰り返し指導を受ける生徒の基本的な生活習慣の改善、確立が必要である。
		・身なり（服装髪）の徹底	・服装違反数（登校指導）昨年度比40%減	・登校指導での服装指導と検査の充実 ・連携指導による徹底指導と意識の高揚	C	・頭髪服装検査は学期最初に基準確認のため複数の科担当者での検査を行った。現在のところ、減少傾向にある。 ・3年生の進路決定後の崩れに歯止めをかけるまでには至らなかった。毎日生徒と顔を合わせている担任の先生との連携強化が必要である。 ・登校指導での違反件数は減少している。軽微な違反も見逃さず指導を継続したい。
		・交通規則遵守	・事故、違反件数昨年度比50%減	・交通講話等をはじめとする交通教育の充実と現地（学校付近の危険箇所等）での登下校指導の実施	C	・件数的には横ばいである。しかし、1つの事故が大きな事故につながっている。交差点付近での事故が大半を占める。左右確認、一旦停止などを確実に行えば防げた事故もあったようにも思える。 ・校外でのクレームにおいては、当日及び翌日等に職員を配置して指導、危険箇所は登校指導時にローテーションを組み職員を配置し事故予防に努めたため繰り返しのクレーム・事故発生には至っていない。
		・規範意識高揚	・特別指導件数全校生徒数の1%以内 ・2A運動の徹底 ・情報モラルの育成	・学級、学年、科、部活動等と連携しながら全校をあげて熊工生としての自覚を促し、指導徹底を図る。 ・スマホ、ケイタイ安全教室の実施	C	・特別指導件数は4件4名と増加した。その他、大きなトラブル・問題に発展しかねない事例も数件発生し指導を行ったが、自分勝手に安易な行動、自己中心的な考え方によるものが多く、規範意識の低下を強く感じた。今後も継続的な指導が必要である。
		・防犯意識高揚	・盗難被害件数昨年度比50%減  ・自転車二重ロック施錠率95%以上	・自己管理能力向上に向けた継続的指導の実施 ・学校行事等においては、校内巡視など警備の充実を図る。 ・毎月26日を二重ロックの日と定め、生徒会と連携して声掛けの実施・点検を行うことにより、施錠率の向上と無施錠自転車ゼロを目指す。	C	・1学期は盗難が起らなかったが、2学期に入り7件発生した。貴重品袋を新調し活用を訴えたが活用されていない。担任、教科担当者との連携強化も必要。校内巡視のみでは限界がある。 ・毎月26日を交通委員とともに二重ロックの呼びかけ及び点検を行った。パソコンでのデータ管理も整備できた。二重ロック100%を目標に取り組みたい。
		人権教育の推進	人権教育推進体制の確立 ・人権教育推進委員会の充実 ・LHRの充実	・5回の推進委員会の開催 ・綱領「友愛協調」に根ざした社会人に相応しい人権感覚の育成	・「5S活動」、「友愛協調」精神の全職員での指導 ・LHRにおける「情報モラル」、「身近な人権課題」の学習 ・「言わない・書かない・提出しない」の徹	B

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育指導の共通意識</li> </ul>		底		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員、生徒の共通認識のもとに十分指導ができた。</li> </ul>
	研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内、校外研修の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全教職員の積極的な校外研修への参加</li> <li>・ 教職員の人権資質向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校外研修では、研修の意義を伝え、できるだけ多くの選択肢を紹介し、参加を呼びかける。</li> <li>・ 校外研修の書面による復講及び報告</li> <li>・ 「いじめ」の構造についてのさらなる理解</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内研修では、10人の先生方からの実践報告をレポート研修として実施した。地震の関係で昨年21.1%だった校外研修の参加率は46.0%に倍増した。</li> <li>・ 概要と感想を代表者に書いてもらい、全職員に共有した。</li> <li>・ 「いじめ」の構造については、防止委員会で情報を共有できた。</li> </ul>
	命を大切に する心を 育む指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自他の生命を尊重する心の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全職員によるあらゆる教育活動での多角的なアプローチ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科において授業内容との関連付け</li> <li>・ LHR、学年集会、全校集会等での実施</li> <li>・ 進路教育、人権教育、安全教育等との関連付け</li> <li>・ 5S活動への関連付け</li> <li>・ 外部講師による講演の実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの教科で行ってもらった。</li> <li>・ 各学年を中心に実施してもらった。</li> <li>・ 各校務分掌と協力してできた。</li> <li>・ 各集会での機会ある毎に行うことができた。</li> <li>・ 障がい者や外国ルーツの子どもたちに対する理解を深めることができた。</li> </ul>
いじめの防止等	いじめ防止推進体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめ防止対策委員会及び部会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめ問題に組織的に迅速に対応できる職場環境の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な実態調査、情報交換会からの早期発見、早期対応</li> <li>・ 教師の気づき、生徒・保護者による通報への迅速対応</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめ防止対策委員会、情報交換会を合計年5回開催。実態調査の報告、学校カウンセラーからの御助言等もいただきながら意見交換を行った。</li> <li>・ 各学年から出席状況や学校生活の様子、気になる生徒などについての情報交換を行い、未然防止や早期発見に繋がるよう取り組んだ。</li> </ul>
	研修及び啓発の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめ問題の認識、防止への意識高揚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめ問題の共通理解と未然防止へ取組の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめ防止月間を設け、LHR、講話等啓発活動の取組</li> <li>・ アンケートや感想文をとおした定期的な実態調査</li> <li>・ 教育相談、スクールカウンセリングの活用</li> <li>・ いじめに対する職員の意識調査の実施</li> <li>・ いじめ防止に関する職員研修の実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熊工いじめ防止月間、学校生活アンケートの実施など年間をとおして計画的に取組を行った。</li> <li>・ 情報交換会意により早期発見・実態把握に努めるとともに、教育相談やスクールカウンセラーと連携して取り組めた。</li> <li>・ 外部講師による「ケイタイ・スマホ教室」を実施し、携帯電話利用に起因するトラブル、いじめ撲滅への意識高揚を図ることができた。</li> </ul>
地域連携	防災型コミュニティスクールの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災型コミュニティスクールの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校運営協議会の設置開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学期1回以上協議会を開催し、地域に根差した防災システムについて検討を重ねる。</li> <li>・ 地域の課題に即した避難所運営の在り方を検討する。</li> <li>・ 協議会が出した方向性を各部署、各機関と連携し実現を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協議会や施設部会の定期的な開催により、施設利用計画やタイムライン、地域参加型防災訓練、防災教育について検討を重ねることができた。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害に適切に対応できる学校運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災マニュアルの作成</li> <li>・ 避難訓練の実施</li> <li>・ 防災研修の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域特性に合わせた防災マニュアルの作成、避難訓練、防災研修の実施を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協議会や施設部会の定期的な開催により、防災マニュアル案が作成できた。</li> <li>・ 避難訓練については、従来型であったが、地域参加型訓練に向けた案が作成できた。</li> <li>・ 防災研修については年度末に一度開催することができた。十分ではないので、今後検討したい。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害後のサポート体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートの必要性の把握と対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心的サポートが必要な生徒の把握と適切な対応を図る。また、ハード面でのサポートが必要な施設の把握と適切な対応を図る。</li> <li>・適切なサポートに向けて、関係部署との協力を図る。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のケアが必要な生徒を積極的に把握することはなかった。学年との連携体制を今後築いておく必要がある。ハード面でのサポートについても積極的な把握はできなかった。</li> <li>・以上の課題にあたり、まずは施設部スタッフ構成の見直しを図りたい。</li> </ul>
工業教育	ものづくり教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくり教育をとおして我が国や地域社会に貢献できる人材を育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業教育における知識や技能、技術の習得及び5S活動と2A運動の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習や座学の各授業での分かりやすい授業</li> <li>・面白い授業による学習意欲の喚起、学力及び技術力の向上</li> <li>・5S活動と2A運動をとおした落ち着いた学習環境づくり、規範意識向上による「安全」と「環境」を考えた教育の実践</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約8割の生徒が授業は理解できていると答え、前年比+2P、不明な点を解明しようとする生徒が前年比+1.9P等、授業への取組み姿勢や学習意欲の向上が窺える。</li> <li>・5S活動に伴う整理整頓や掃除ができていたと答えた生徒は前年比+2.6Pと昨年度を上回り、若干の向上が見られる。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種コンテスト・競技大会等における全国大会出場を目指した取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大会を意識した早めの準備と年間をとおした計画的、継続的な指導</li> <li>・熟練技能士を招いた実技研修会などによる指導者のスキルアップ</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりコンテスト県大会では化学分析部門、家具工芸部門で金賞の他、銀賞（旋盤部門、木材加工部門）、九州大会では家具工芸部門で優良賞だった。九州地区高校生溶接技術競技会は、県大会で団体の部、個人の部ともに優勝。九州大会では個人の部優良賞（2名）だった。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりをとおした地域貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習、課題研究、工業クラブ活動において地域に貢献できるテーマを実践</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築科による益城町惣領神社の手水舎の製作、立田の祠の製作を行った。また、地震復興支援の取組みで、機械科製作のリヤカーを被災地へ贈呈した。</li> </ul>
	資格取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる資格検定への挑戦をとおして、生きる力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジュニアマイスター顕彰者数全国トップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格検定試験の指導での担当者や資料、指導方法などの工夫と効率的な取組</li> <li>・更なる上級検定試験へのチャレンジによるジュニアマイスター認定者の増加と即戦力となる人材の育成</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各工業科が積極的に資格取得の指導に取組んだ。</li> <li>・ジュニアマイスター前期認定者は、ゴールド20名、シルバー58名、後期認定者は、ゴールド65名、シルバー22名。</li> </ul>
部活動	部活動の充実による学校活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間性の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつなどの礼儀、責任感や協調性などの態度、環境美化などに取り組む奉仕の心の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技成績の向上と社会で通用する人間性育成の両立</li> <li>・さらなる挑戦を各顧問が意識し、人間性の育成を顧問間で共通理解し指導する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、礼儀については、これまでと変わらず概ね良好である。環境美化に対する自主性や積極性については、やや物足りなさを感じることもある。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技成績向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大会への個人・団体の出場数の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『全国制覇』を共通の目標とし、各部が切磋琢磨することによる競技力の向上</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大会には、運動部の団体競技で野球、ソフトボール、ソフトテニス、テニス部が出場した。個人競技では陸上競技、水泳、テニス、ソフトテニスが出場した。文化部では、吹奏楽、マイコン部が出場した。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重大事故の防止</li> <li>・怪我件数の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5S活動の浸透、日常の整理整頓と道具管理の徹底</li> <li>・顧問や部員に対し安全面の意識付けの徹底</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「5S活動」を中心とした安全面については、学校の重点目標であり、意識した取り組みがなされていると感じる。部活動中の重大事故は0件、救急搬送数は1件、怪我は74件だった。</li> </ul>
保健安全管理	保健管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断の徹底により、指導を要する生徒の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後措置の徹底、該当生徒への治療勧告書発行による全員実施</li> <li>・生徒指導部、教育相談部等との連携による内</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未受検者には、他学年の実施日に受検機会を設けるなどの対応で、完全実施することができた。</li> <li>また、要配慮者については、関係職員・部署と連携を</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別に支援の必要な生徒を把握</li> <li>・ 感染症の蔓延を防ぐ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>容の把握と早期対応</li> <li>・ 必要に応じたスクールカウンセラー及び専門医等との連携</li> <li>・ 教務支援システム及び健康観察表による出席停止等の状況把握</li> <li>・ 全国、県下での感染症発生状況の情報提供</li> <li>・ 疑似罹患者を早期把握し、予防のための環境整備</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>とることができた。</li> <li>・ 毎日の出席状況を把握することにより、担任・科と連携をとり、必要に応じてカウンセリングの設定や保護者対応に繋げることができた。</li> <li>・ 感染症に関しては、感染性胃腸炎他の報告が年間をとおして若干あった。インフルエンザに関しては、1月現在で1クラスの学級閉鎖をする事となった。</li> </ul>
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全な学校環境衛生の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全点検の実施</li> <li>・ 衛生検査の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学期1回、校内安全点検の実施</li> <li>・ 学校薬剤師と連携し、諸検査の実施と事後措置を徹底</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境衛生検査及び安全点検は、計画に沿って実施できた。なお、環境衛生検査については、すべて基準値以内であった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 危機管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故防止及び緊急時の連絡体制を周知徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育的行事での事故防止</li> <li>・ 部活動顧問等との連携(安全管理と安全教育の徹底)</li> <li>・ アレルギー疾患生徒の把握とアナフィラキシー発現時の対応についての職員への周知徹底</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育的行事や活動において、大きな事故の発生はなかった。昨年は持久走大会においては、一昨年度急激な気温上昇に伴った体調不良者が出たため救急車の要請を行ったが昨年度も本年度も無かった。事前の給水等の対応が功を奏した。</li> <li>・ 資料を配布し、全職員への周知に努めた。</li> </ul>